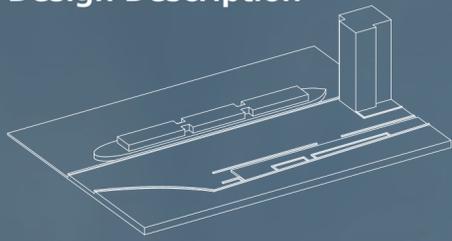
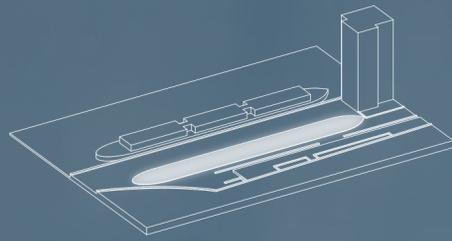


## Design Description



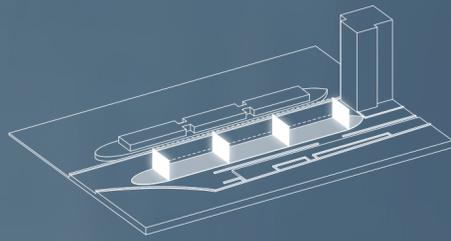
### 1. 現況\_船と広場

固有の機能や用途を持たない広場が、船という存在を引き立てている。



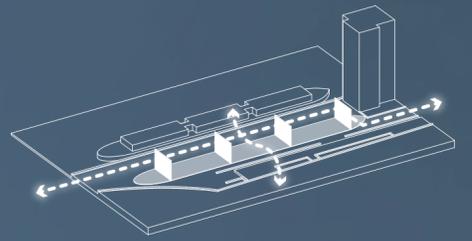
### 2. 操作①\_舗装を設える

歩んできた歴史を刻むように、広場に船の輪郭をかたどった舗装を設える。



### 3. 操作②\_壁をたてる

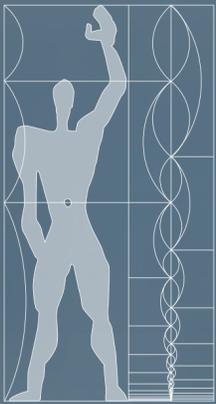
船と同じ幅、高さの4枚の壁をたてる。船の内部空間が浮かび上がる。



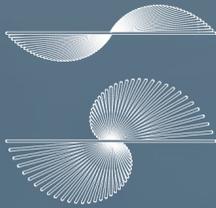
### 4. 既存環境に配慮

建築的な操作を最小限にとどめることで、現況の動線や視線の抜けを維持する。

## Design Code

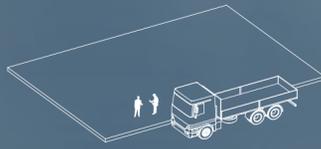


モデュール

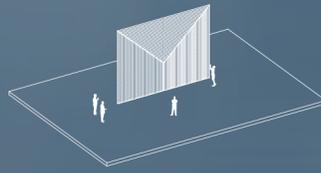


回転軌跡

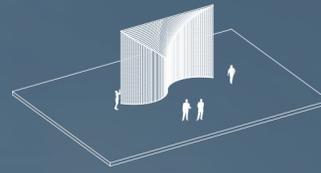
## Deformation



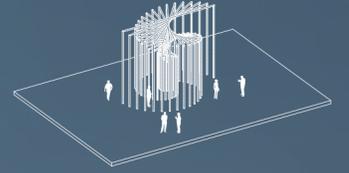
1. 既存インフラでの輸送が可能



2. 容易な組み立て・設置

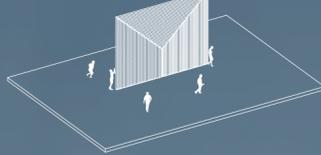


3. 回転させる

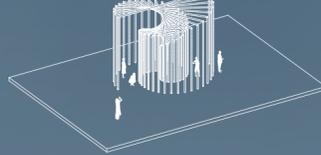


4. より回転させる

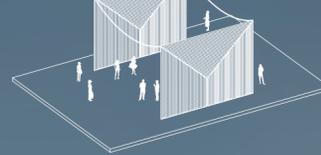
## Flexibility



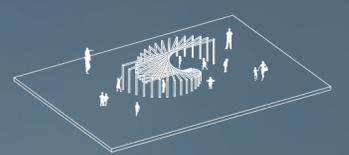
1. 境界をつくる



2. パーソナルスペースをつくる



3. コモンスペースをつくる



4. 自由発想と創造力を育む遊具

# on-as

1929年にル・コルビジエによってリノベーションされた水に浮かぶ建築「アジール・フロタン」は、2018年のセーヌ川の増水により沈んでしまいましたが、多くの人々の協力を得て2020年10月、再浮上を果たした。

そんなアジール・フロタンが接岸する河川敷が本計画の敷地であり、セーヌ川を背景にその歴史を感じられる特等席と言える。

現在の河川敷は、石畳の舗装が設えられ、少しの植栽帯があるほかにはなにもない。なにもないが故に、固有の機能や用途を持たず、船という存在を引き立てている。我々は、現在の広場と船の関係性に着目し、建築的な操作を最小限に留め、船を模った舗装と4枚の可動壁を計画した。

アジール・フロタンと同じモジュールで配置した壁により、船型の舗装とともに、広場に船の内部空間が浮かび上がる。コルビジエのモデュールに着想を得たこの壁は、個人から不特定多数の人々、様々なシチュエーションに合わせて、川を流れる水のように、自由に形態を変化させ、機能さえも更新していく。

あるときは壁であり、またある時は部屋である。アートであり、街灯でもあり ... 広場に降り立った”on”4枚の壁から始まる、さまざまなものがたり”as (after story)”

